

若林秀隆, 荒木暁子, 森みさ子(編集)

サルコペニアを防ぐ！ 看護師によるリハビリテーション栄養

評者 吉田 剛

日本理学療法士学会栄養・嚥下理学療法部門

リハビリテーション栄養についてはすでに多くの出版物がありますが、看護師向けは本書が初めてと聞いて意外に感じられる人も多いでしょう。リハビリテーション栄養という考え方は、本書をまとめた若林秀隆先生から発信され、すでに全国的に定着してきており、2017年には日本リハビリテーション栄養学会が発足しました。その過程で、医原性サルコペニアと呼ぶべき状態が生じていることを認識し、予防するべきであるというメッセージが出されています。

本書は、装丁やフォントがおしゃれで、A5判、244ページながら手にしやすい価格に設定され、専門書というハードルを下げてとても読みやすいものになっています。しかし、その中身は濃く、総論から各論(疾患別リハビリテーション栄養)まで網羅されています。特に半分の紙面を割き、10疾患を挙げ、疾患概要、エビデンス、症例についてまとめている「第3章 疾患別リハビリテーション栄養」は本書の魅力であり、症例は「リハビリテーション栄養アセスメント」「リハビリテーション栄養ケアプラン」「介入後の経過」で構成され、看護の実際、ゴール達成状況などが項目を立てて整理され、リハビリテーション栄養を実践するための臨床思考過程がとてもよくわかる内容になっています。つまり、本書は職種を超えて最新のリハビリテーション栄養を実践するための指南書になるわけです。

私たち理学療法士は、病棟看護師と同じように病棟での患者の生活にかかわり、活動状態を把握し、看護師と共同して医原性サルコペニアを予防する役割を果たしていかなければなりません。本書では、NST専門療法士や摂食・嚥下障害看護認定看護師など、研さんを積んできた看護師たちが執筆しています。看護師の視点からの考え方を知ることが、一緒に病棟患者の生活にかかわり医原性サルコペニアの

予防に立ち向かっていく理学療法士にとって大事なことだと思います。

私たち理学療法士も、若林先生のように日頃の臨床を厳しい目で見直し、よいと考えることを社会に広め、文化となり普及していくように戦略と強い意思をもって進めていくことが必要であると感じます。

コラムの1つに「セルフマネジメントの究極の質問」(p.16)があり、そこで若林先生は、何によって憶えられたいかと考えたとき、「医原性サルコペニアを病院から(少)なくした人として憶えられたい」と述べています。この信念が貫かれた良書として、最新のリハビリテーション栄養の手引きとされてはいいかがでしょうか。

サルコペニアを防ぐ！ 看護師による リハビリ テーション 栄養

若林秀隆
荒木暁子
森みさ子

“どりあえず禁食・安静”!?
リハと栄養、足りていますか?

身体機能、ADLを低下させ、
栄養状態を悪くし、寝たきり・嚥下困難、活動制限を招き起こすサルコペニアは、
予後不良な状態にもなる低活動、栄養管理を徹底とする医原性リスクも多岐あり。
サルコペニアを予防し、改善するために求められるのは、
適切なリハと栄養管理である。

A5判・244頁

定価：本体 2,600 円 + 税

医学書院刊、2017 年